

労働条件の改善による新規就業者の確保

1. 松江森林組合(松江市)

- 【管 轄】 松江市一円
- 【民有林面積】 23,814 ha
- 【設 立】 H5年に7組合が合併し設立
- 【現場作業員】 29名(事務員除く)(組合員 6,681名)
- 【主な事業量】 原木生産量 3,870m³
植林・保育面積 125ha

2. 取組の背景及び概要

【背景】

スギ・ヒノキの人工林が主伐期を迎えている中、森林組合だけでは小規模な面積しか対応できないことから、他の事業体と連携して大規模な現場に対応できる作業体制を構築。

その中で森林組合が主たる役割を担う植林と、その後の保育作業を行う労働力(現場作業員)の確保が課題。

そのためには新規就業者を確保する必要があり、労働条件の改善が急務。

【取組内容】

- (1) R6年度に現場作業員の給与体系を見直し、給与水準を3,364千円に設定し、従来と比較して、約9%引上げ。
- (2) 初任給の見直しも併せて行い、初任給を月額197,000円(高校卒業程度)に設定し、従来と比較して約15%引上げ。
- (3) R6年度には松江市内の高校2校を訪問したほか、ハローワークや農林大学校へ向けて職場環境をPR。
- (4) 県内の林業事業体で初のイクボス宣言(R6.9.1)を実施。

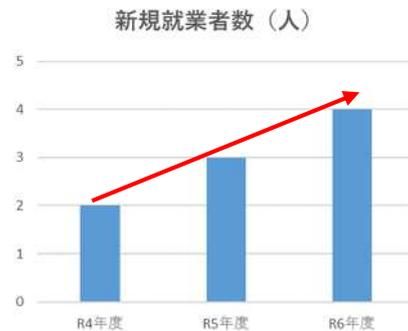
※イクボス宣言

職場における働き方改革に積極的に取り組み、従業員がいきいきと活躍できる職場を実現するため、企業・団体の代表者が行うもの。

3. 取組の成果

(1) 給与水準の引き上げにより、現場作業員の仕事への意欲の高まりとともに、組合員所有山林への植林面積がR4年度3ha、R5年度9ha、R6年度12ha(見込)と増加。

(2) 新規就業者は、R4年度に2名、R5年度は3名、R6年度は4名と増加傾向で推移。



生産体制を強化し、事業量の拡大を図ることで、魅力ある職場づくりを進めていきたい

～ 松江森林組合 代表理事専務 古曳正樹 ～

4. 課題と今後の取組方向

- (1) 現場作業員のモチベーションを更に高めるため、給与水準の引き上げに加え、能力評価制度の導入を検討。
- (2) R6年度に土曜日出勤を年間6日のみとし、R7年度以降早期に完全週休2日制へ移行。
- (3) 労働力確保に向けて、外国人材の受け入れの検討開始。



植林作業



下刈り作業